

令和6年度 年度評価結果表

施設の概要等	施設名称	慶雲館		
	施設所管課	文化観光課		
	施設概要	慶雲館 【本館】 明治20年建築、延床面積:492㎡、構造:木造2階建、寄棟造、棧瓦葺 1階:展示室、床の間、2階:展示室、玉座の間(国指定名勝構成物件) 【茶室】 明治45年建築、延床面積:46.34㎡、構造:木造平屋建、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【表門】 平成12年建築、延床面積12.60㎡、構造:木造、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【中門】 明治45年建築、延床面積18.25㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【露地門】明治45年建築、延床面積4.40㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【庭園】 明治45年作庭、国名勝指定物件 梅の館 平成12年建築、延床面積:723.78㎡、構造:鉄骨造2階建、棧瓦葺 1階:展示室、2階:展示室、会議室		
	指定管理者名	公益社団法人長浜観光協会		
	指定期間	R6.4.1～R7.3.31		
事業成果（令和6年度）	管理実施状況	管理運営業務	① 慶雲館条例第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務 一 地域文化及び建造物に関する資料等の展示 二 保存資料についての説明及び助言 三 観光振興を目的とする特別展等の開催 四 建物及びその附帯施設等の公開と供用 五 その他慶雲館の設置の目的を達成するために必要な事業 ② 管理施設及び付属施設の維持管理に関する業務 ③ 管理施設の使用許可に関する業務 ④ 管理施設の使用に係る利用料金の徴収に関する業務 ⑤ 盆梅展の運営に関する業務 ⑥ 盆梅の育成及び管理に関する業務 ⑦ その他市長が必要と認める業務	
		自主事業の実施状況	・伊吹高校書道部書展 4/1～4/4(4日間) 176人 ・湖国の現代工芸作家四人展 4/20～5/6(18日間) 1584人 ・長浜盆梅展フォトコンテスト作品展 5/11～5/26(16日間) 865人 ・慶雲館で魅せる苔の世界展 6/5～6/30(26日間) 1337人 ・盆梅の今昔展～盆梅になるまで～ 7/20～9/1(44日間) 1102人 ・竹灯り展 9/11～9/29(18日間) 1283人 ・多治見工業高校 盆梅鉢作品展 10/9～10/27(19日間) 1080人 ・スタジオアジュール梅アート展 11/9～12/1(21日間) 1370人 ・第74回長浜盆梅展 1/10～3/10(61日間) 26705人	
	利用状況	利用状況	令和6年度実績	令和5年度実績
			39,164人	43,584人
		利用者アンケートの結果	特記事項(増減理由等)	
			通年公開の入館者数は1,158人の減、長浜盆梅展は3,262人の減となった。最も入館者数が多い2月の連休が寒波襲来と重なり、鉄道や高速道路の通行止めなどの影響により、個人客だけでなく、団体ツアーがキャンセルとなったことが下がった要因と考えられる。	
事業成果（令和6年度）	利用状況	利用者アンケートの結果	評価区分	
			実施概要	方法: 盆梅展の来場者のアンケート 期間: 盆梅展開催期間
			結果	県外からの来場者は約55%、初めて来た方は約47%であった。「満足」「やや満足」の合計は90%以上であり、満足度が高く、リピーターが多いことがわかった。
			利用者の声をふまえ、反映した事項	伝統的な本来の盆梅の魅せ方を活かしつつ、バージョンアップを図る。
			施設における収支	令和6年度実績
事業成果（令和6年度）	利用状況	利用者アンケートの結果	令和5年度実績	特記事項(増減理由等)
			令和5年度実績	特記事項(増減理由等)
			令和5年度実績	特記事項(増減理由等)
			令和5年度実績	特記事項(増減理由等)
			令和5年度実績	特記事項(増減理由等)

収支状況	収入(千円)	54,111	55,085	2月の寒波の影響から入館者が伸び悩んだこと、全国的に梅の開花が遅れたことから、昨対比減となった。
	(指定管理料)	8,912	8,912	
	(利用料金収入)	18,583	22,233	
	支出(千円)	46,306	57,172	
	その他特記事項		特になし	

年度評価	評価項目	主な評価の視点		配点	評価点
	①設置目的の達成の取組	施設の設置目的の達成、利用者サービスの向上		40	18
	②効率性の向上等の取組	経費の節減等、収入(利用者)の増加		25	18
	③適正な管理運営の取組	経理状況、管理運営費の実施状況、公共性・安全性等の確保		35	30
	合計			100	66
	年度評価及びコメント	年度評価	当初目標の入館者数を下回る結果となった。その要因としては、全国的に梅の開花が遅れたこと、最も入館者数が多い2月と寒波が重なり、個人客だけでなく、団体ツアーのキャンセルが続いたことだと考えられる。		
		B	入館者数は伸び悩んだものの、アートとのコラボ展示やお茶席での期間限定商品の販売、観光庁事業でのお茶席体験の実施などの結果、アンケートの「満足度」の結果は高く、一定の評価を得たといえる。 今後は、新たな企画やプロモーションの展開などを見直し、入館者数の増加を図る必要がある。		